



## 本日はよくお参り下さいました

ようやく涼しくなりました。10月に入るとくりはま花の国でコスモスが見頃になります。この時期、天神社は観光に訪れた折にお参りされる方が多く、初めてご祭神が「菅原道真、学問の神」ということをお知りになった方の中には、「自分には勉強はもう関係ないから(笑)」という方もあります。学びというのは学校の勉強や、様々な知識を得る一面もあれば、人として成長するために努力を重ねていくことも学びの一つではないでしょうか。このように考えて頂くと、いくつになっても、天神さまと縁がなくなることはないと思うのですが…。さていよいよ、秋が深まるこの季節、紅葉狩りなど行楽で楽しめる方も多いかと思いますが、伊勢の神宮では神嘗祭(かんなめさい)という五穀豊穡に感謝するお祭が行われるおめでたい月でもあります。神無月は出雲に神さまがお集まりになって神社が留守になる、という解釈もありますが、神々を篤くおまつりする「神奈月」神の月が語源ともいわれています。寒暖の差が激しい時期ですので、どうぞお体をご自愛下さい。今月も皆さまのご無事とご多幸をお祈り申し上げます。権禰宜道子



## 10月

1日・15日 つきなみ祭 月に二回の恒例祭祀。

1日 更衣(ころもがえ) 季節に合わせ衣類や、衣類の収納場所をかえる衣替え。2週間から1か月程度は移行期間とされ、夏服を着てもよいことになっています。平安時代宮中から武家や庶民に広まった習慣といわれています。

8日 寒露(かんろ) 空気が冷えてくる頃。大気の状態が安定して空気が澄み、秋晴れの日が多くなりそうです。

12日 体育の日 スポーツに親しみ、健康な心身を培う。

17日 神嘗祭(かんなめさい) 神嘗祭というのは、伊勢の神宮で行われるまつりで、年間1,800回以上も行われる神宮のまつりの中でも最も重要なまつりとされています。その年に収穫された米の初穂を、初めて大神さまにお供えします。天皇陛下が皇居で作られた御初穂をはじめ「懸力(かけちから)」と呼ばれる全国の農家から献納された、多くの初穂も並びかけられます。

25日 霜降(そうこう)

秋が一段と深まり初霜が見られる頃。この頃から冬支度が始まります。

25日 十三夜

十五夜について美しい月が見られる日。

懸力||初穂



## 天神さまの豆知識

〜神さまも衣替え?〜

一般的に行われている冬服への衣替えをなさる神さまがいらつしやいます。▼『古事記』や『日本書紀』には、天照大御神さまがご自身で装束をおつくりになつていらっしゃるから、装束をたてまつることは衣食住のひとつとして、古くから神事と深い関りがあります。▼その代表的なお祭りが伊勢の神宮の神御衣祭(かみみそさい)です。毎年五月と十月に、行われるおまつりです。実際は大神様のお姿を装束の形で現すことはおそれ多いなどの理由から、麻や絹を反物のままで糸と縫い針を添えてお供えします。▼

熱田神宮や賀茂御祖(かもみおや)神社、大宰府天満宮などでは更衣祭(ころもがえのまつり)が年に一度行われます。▼毎年欠かさず、神々に新たな神御衣をたてまつる理由の一つには、新しい装束に身を包むことで、さらなるお力を発揮して頂きますようにという人々の願いがこめられています。ちょうど私たちが新しい服に袖を通した時に背筋が伸び、やる気ができるような感覚になると同じかも

しれません。参考

文献 『お宮と私たち』全国神社保育園

体連会が発行



## お祭り歳時記

長崎くんち(十月七・八・九日)

長崎の氏神「諏訪神社」の秋季大祭。奉納踊には異国趣味のものが多く、江戸時代から豪華絢爛な祭礼として有名です。この奉納踊は、国指定重要無形民俗文化財に指定されています。「くんち」には「宮日」「供日」という字があてられることがあります。旧暦の重陽の節句にあたる九月九日に行つたことに由来するといふ説が有力です。博多おくんち(福岡県福岡市櫛田神社)、唐津くんち(佐賀県唐津市唐津神社)と並んで日本三大くんちと呼ばれる秋の祭礼です。

## 今月の言葉

『何事も本つ心の直きに省みよ』

賀茂真淵(「国意考」より)

本来の人間の本心は真つ直ぐだが、損得、欲得に惑わされたとき、利己的な判断をする。それは真つ直ぐな心ではない。かたよつた考えは反感を買い、対局した者とは相容れず、人の間の対立を生む。私利私欲にゆがむことのない「真つすぐな心」とはすなわち真心で、ゆがんだ心は「邪心」であり、他者は邪心を受け入れない。では、いま持つたこの心は果たして真心か。自分の心をかえりみて自問する。この自己確認と反省が人には必要なのである。引用『神道のことば』武光誠監修 河出書房新社